

ご自由にお持ち下さい



済生会
だより

ならしいの

千葉県済生会習志野病院 院外広報誌

No.35 2015.夏号



Contents

- 神経内科の紹介
- 熱中症の予防
- 薬剤部だより
～ご自宅に飲まなくなったお薬が
たくさん残っていませんか?～
- 糖尿病講座のご案内

今号の表紙

ひまわり

撮影：園芸クラブ



すべてのいのちの虹になりたい

病院の理念

患者さんに寄り添う医療を通して、地域住民の健康と福祉の増進に寄与します

病院の基本方針

- ・患者さんの権利と意思を尊重し、ともに考え良質で効率的な医療の提供に努めます
- ・全ての職員はレベル向上のため研鑽し、最善のチーム医療を行います
- ・地域医療機関との連携を深めて、中核病院としての役割を果たします

神経内科の紹介

神経内科部長 上司 郁男

当院の神経内科ではこれまで8年間非常勤医師1名のみで外来診療をおこなっておりましたが、救急・入院診療はおこなっていませんでした。今年4月に常勤医師2名が着任し、通常の診療が開始されました。

神経内科は精神科とは異なり、うつや神経症などの精神疾患をあつかう診療科ではありません。脳、脊髄、末梢神経、筋などかなり広い範囲の器質的(臓器に異常のある)疾患を診ていきます。

たとえば

- 血管障害 : 脳梗塞、脳出血など
- 感染性疾患 : 脳炎、髄膜炎など
- 自己免疫疾患 : 多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症など
- 変性疾患 : パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー型認知症など
- 代謝性疾患 : 薬物性脳症、糖尿病性ニューロパチーなど
- 機能性疾患 : てんかん、片頭痛など
- 筋疾患 : 筋ジストロフィー、周期性四肢麻痺などがあげられます。

受診する契機になる症状は意識障害、物忘れ、喋りにくさ、四肢の筋力低下、異常感覚、ふらつきなどがあります。

診断のためによくおこなう検査はCT、MRI、脳血流SPECTなどの画像検査、脳波、神経伝導検査、針筋電図などの電気生理学的検査、腰椎穿刺による脳脊髄液検査があり、疾患に応じて実施していきます。

脳血管障害は発症率の高い疾患であり、脳神経外科とオーバーラップする領域です。当院では脳神経外科とチームを組んで脳血管障害の診療をしています。

習志野市内には神経内科を標榜する医療機関はほかにありませんし、船橋市には神経内科医が常駐する病院はないのがついております。ですから習志野市のみでなく近隣からの患者さんも受け入れていくことになります。

常勤医師2人で十分な救急・入院診療ができるのか心配ではありますが、地域の皆様のお役に立てるよう努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



神経内科医師

外来診療担当表

神経内科は紹介予約制

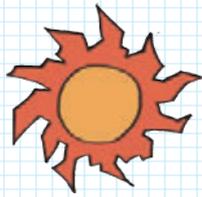
曜日	担当医師
月	榊原
火	牧野
水	上司
木	榊原
金	榊原

熱中症の予防

臨床栄養科 管理栄養士 渡辺 優

毎年夏になると、熱中症のニュースをたくさん見ると思います。熱中症患者さんの約半数が高齢者ということをご存じでしょうか。特に高齢者は、喉の渇きを感じにくいことや、頻尿の心配から水分摂取を控えていることが多く、脱水になりやすいです。体温が上昇すると、汗をかくことで体温を下げようと思いますが、脱水をおこすと汗が出にくくなり、体温が上昇してしまいます。体温が上昇し、改善できる環境がないと、熱中症をおこしやすくなります。熱中症になる前にしっかりと対策をしましょう。

熱中症の原因となるもの



高い気温や湿度、強い日差し



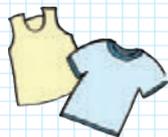
激しい運動や労働



水分不足

熱中症対策

1. 暑さを回避



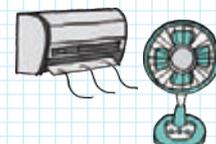
通気性のよい服装



日陰の利用



日傘や帽子



扇風機やエアコン

2. 水分補給



熱中症は屋外にいる時だけではなく、室内でも発症します。

室内でも屋外でも、喉の渇きを感じる前に、こまめに水分補給をしましょう。

汗の中にはナトリウム(塩分)が含まれています。汗をかくと水分だけでなくナトリウム(塩分)も失うため、**汗をかいた時は塩分も補給しましょう。**ナトリウム(塩分)が吸収される際にブドウ糖があると、ナトリウム(塩分)の吸収が促進されます。ナトリウム(塩分)の吸収が促進されれば、水分の吸収も促進されます。**食塩とブドウ糖を含んだ、経口補水液のような飲料は、水分の吸収を促進します。**

ただし、糖尿病の方は、大量に摂取すると高血糖になる可能性があります。また塩分も含まれているため、高血圧、腎臓病、心臓病の方は、医師や管理栄養士へご相談ください。

カフェインを含む飲料(コーヒー、ココア、緑茶、ほうじ茶、ウーロン茶等)やアルコールは利尿作用があり、かえって水分を排出してしまうため、水分補給として飲む場合は水や経口補水液が適しています。



日常生活でほとんど汗をかかない場合は、水を。

運動や労働で大量に汗をかく場合は、経口補水液を。

薬剤部だより

～ご自宅に飲まなくなったお薬がたくさん残っていませんか？～

副薬剤部長 田中 嘉一

同時に複数の医療機関を受診しているために、飲まなければならないお薬が何種類もある場合、飲み忘れをはじめとした種々の原因の積み重ねにより、写真のように、ご自宅にお薬が大量に残っていることはありませんか？

日本薬剤師会の調査では、1年間で約500億円のお薬が、飲まれずにタンスなどに保管されていたと報告されています。服用中のお薬がご自宅にたくさん残っているような場合には、かかりつけの医師に相談し、お薬の日数を減らすなどの調整をしてもらいましょう。

医師に告げにくい場合には、お薬を調剤してもらう薬局において、お薬がたくさん残っていることを薬剤師に相談してみてください。薬剤師が医師との協議の上、調整することも可能です。また、残っているお薬を症状が似ているからといって、家族や知り合いに譲るといったことは、予想外の飲み合わせやアレルギーにより有害な反応がおこることもあり、大変危険ですので決しておこなわないようにしましょう。



糖尿病講座のご案内

当院では、奇数月に糖尿病講座を開催しています。参加費は無料ですので、是非ご参加ください。なお、人数に制限がありますので、準備の都合上、必ず事前に予約をお願いいたします。

お申し込み・
お問い合わせは、
内科外来まで

7月の講座 (第2回)

日時 7月24日(金) 14:00～16:00
場所 当院8階講堂
テーマ 糖尿病性眼症
検査値の見方
薬物療法入門「その2」

9月の講座 (第3回)

日時 9月25日(金) 14:00～16:00
場所 当院8階講堂
テーマ 糖尿病性腎症
糖尿病と歯周病
歯の手入れ

なお、日時・内容は変更する場合がございます。

お知らせ

「済生会だより ならしの」は病院ホームページからご覧になれます。

発行/千葉県済生会習志野病院

〒275-8580 千葉県習志野市泉町1-1-1 TEL 047-473-1281 (代) FAX 047-478-6601
ホームページ <http://www.chiba-saiseikai.com>